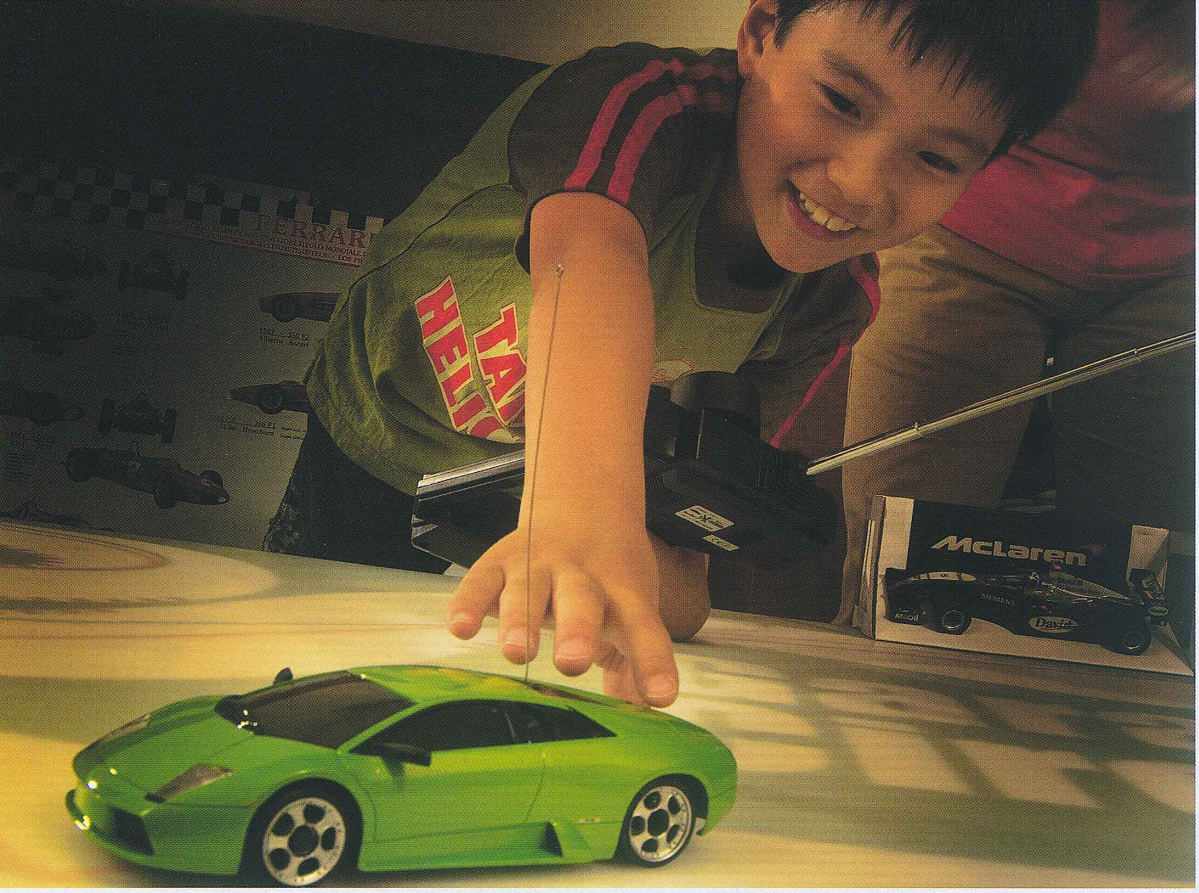
小さなスーパーカー

文・関口 巽　写真・小渕喜幸



四月十日に改修工事の終わったFISCOのグランドオープンフェスティバルを親子で見に行った。パレードラップでトヨタ『2000GT』が走り始めたところで、「あの車何?」と息子のさとしが聞いてくる。あれは日本の誇るスーパーカーだよと答えると「スーパーカーって何?」ときた。なかなか難しい質問である。頭の中にフェラーリ『512BB』、ポルシェ『930ターボ』、マセラティ『メラク』、デ・トマソ『パンテーラGTS』、ランチャ『ストラトス』、ランボルギーニ『カウンタック』などの単語が浮かぶ。しかしF1のデモ走行のエキゾーストノーツにかき消され、説明はお預けだ。その後スーパーGTのフリー走行が始まった。耳をつんざく大音量で、メインスタンド前のストレートを弾丸のように色とりどりのマシンが走り去る。その中にひときわ甲高い音とクサビのようなシェイプをした黒いマシンがあった。ランボルギーニ『ムルシェラゴ』だ。スーパーカーの末裔。六〇度V型十二気筒DOHC四八バルブ縦置きミッドマウント、フルタイム4WD、高張力スチール合金チューブラーフレーム。最高速度三三〇km以上…。スペックがスラスラと出てくる。

帰宅途中に二人でホビーショップに立ち寄った。そこで買い込んだのがランボルギーニ『ムルシェラゴ』のR/Cカーだ。さとしをだしに、大人買い。選んだのは京商の『ミニッツレーサーMR-02』。手の平サイズでありながら緻密に作られ、分厚くクリアーを吹いたような塗装も魅力的だ。自宅のガレージに簡易サーキットを作って走らせようと思っているので、このサイズがちょうどいいのだ。サーキット制作のための材料を仕入れて帰宅。

さとしが外に遊びに行っている間に、コースレイアウトを考えてガレージにサーキットを作る。今日は仮のレイアウト。ガードレールはプラ板で頑丈なものを取り付ける予定だ。試運転してみると、思っていたよりもずっとスピードが出る。しかもパワフルなので、ステアリングを戻さないと簡単にスピンしてしまう。十分も走らせたらコツがつかめてきた。スロットルをじわっと開ければいいのだ。『ムルシェラゴ』はモーターがリアの車軸よりも前にあるミッドシップ・モーターマウントなのでダイレクトな操縦感が味わえる。サイズは小さいが熱くなってしまう。さとしがガレージにやってきた。いつもならオイル臭いなどと言って寄りつかないのだが、R/Cカーには興味津々のようだ。

送信機をわしづかみにするといきなりスロットル全開。『ムルシェラゴ』は壁に激突したが幸いダメージはなかった。先ほどの経験を踏まえて操作方法を教えると、コースアウトしないで走れるようになった。これはまずい、すぐにテクニックで追い抜かれそうである。結局、今度の休みにはデパートの屋上にあるコースに行くことをさとしに約束させられた。話の糸口が見つからなかった息子と男同士の会話ができそうだ。

電動ラジオコントロールモデル
ミニッツレーサーMR-02MM

ランボルギーニ『ムルシェラゴ』

R/Cユニット組み立て済み完成シャシーに塗装・マーキング済みプラスチックボディ。ホイーラータイプ送信機、4種類のピニオンギア、ホイールレンチが同梱されたレディセット。あとは電池を用意するだけで、すぐに走行が楽しめる。地を這うようなくさび形のシェイプを持つ『ムルシェラゴ』をリアルに再現するためにはMR-02MMシャシーは欠かせない。さらに走行性能を詰めるために、フロントスプリングやリヤオイルダンパー、カーボンリアサスプレートなどさまざまなオプションがラインナップされている。
価格:¥16,590　お問い合わせ先:京商　TEL:046(229)4115
ミニッツ専用ホームページ　www.mini-z-jp　京商ホームページ　www.kyosho.co.jp